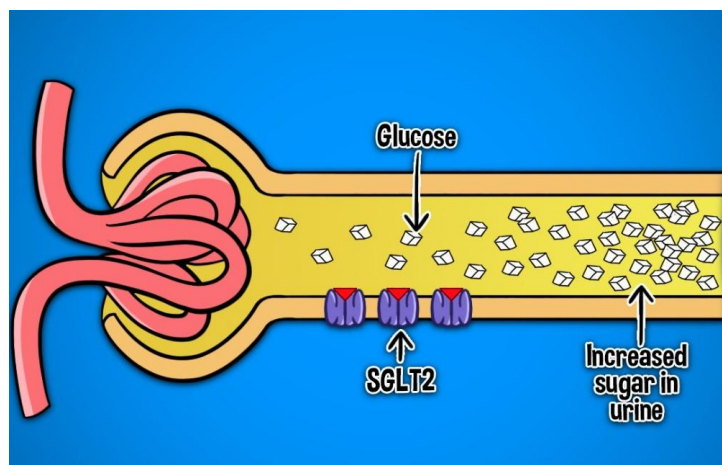


SGLT2 阻害剤による心不全入院・心血管死リスクの低下

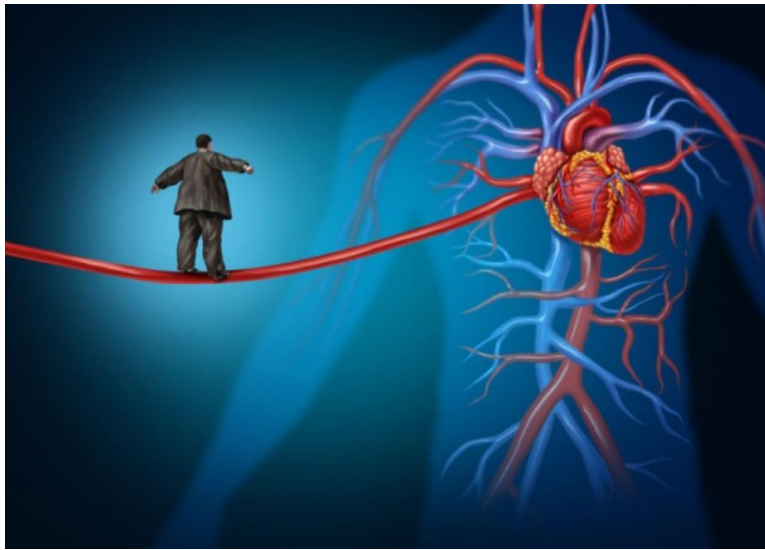
糖尿病治療薬である SGLT2 阻害剤「フォシーガ」（一般名：ダパグリフロジン）の大規模試験の結果が「New England Journal of Medicine」誌に掲載されました。



フォシーガは、ナトリウム・グルコース共輸送体2に作用するファーストインクラスの選択的阻害剤（SGLT2阻害剤）。



心不全による入院または心血管死の複合評価では、フォシーガ群はプラセボ群に対して、17%のリスクを減少。心不全による入院または心血管死の減少は、心血管リスクを有する患者群ならびに心血管疾患の既往歴のある患者群を含むすべての患者群において一貫して認められました。



また、フォシーガ群はプラセボ群に対して、腎症の新規発症率または悪化率を24%減少、全死亡はフォシーガ群においてより低頻度でありました。